

アポイ岳ジオパーク GGN 推薦 現地審査報告書

佃 榮吉（産業技術総合研究所・JGC 委員） 加賀谷 にれ（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会事務局・JGN 現地審査員） 目代 邦康（公益財団法人 自然保護助成基金・JGN 審査補助員）

期間：平成 25 年 8 月 10 日（土）～12 日（月）

主な参加者（所属）：坂下一幸（協議会会長、様似町長）・谷村利幸（協議会副会長、アポイ岳ファンクラブ・様似山岳会会長）・小嶋仁（協議会副会長、様似町教育委員会教育委員長）・新井田清信（協議会学術顧問、アポイ岳地質研究所所長）・小林弥生（協議会理事、認定ガイド）・久野俊昭（協議会理事、観光協会会長、町議会議員）・工藤仁（協議会理事、町議会議員）・酒井健二（町議会議長）・水野洋一（認定ガイド、町議会議員、様似自然・歴史情報センター主宰）・福村聡（北海道日高振興局）・佐々木泰（事務局長）・田中正人（事務局員、学芸員（専門、植物学））・原田卓見（事務局員）・坂下志朗（事務局員）・加藤聡美（事務局員、地質専門員（修士（理学） 専門、岩石学））

主な見学地点：アポイ岳地質研究所『ジオラボ』（幌満小学校跡）、エンルム岬、観音山（カムイチャシ）、かんらん岩広場、アポイ岳登山道、ビジターセンター、日高耶馬溪、幌満峡、かんらん岩採掘跡地、アポイ岳調査研究支援センター、様似町郷土館、第 18 天幸丸、中村おやき店、花薬水産、観光案内所

1) 分野ごとのまとめ

テーマと地質的価値

マントル物質である「かんらん岩」が見られる地質の希少性は、世界的に誇れるジオパークの資源であり、またその価値を生かし、「第4回国際レルゾライト会議（2002）」「GCOE-INeT 国際サマースクール(2012)」等の国際会議の開催実績をもつ。また、今回メインテーマとして「地球深部からの贈りものがつなく大地と自然と人々の物語」が新たに設定されテーマが明確になった。

保全活動

アポイ岳の環境保全のため「アポイ基金」を運営し、町ぐるみで保全に取り組むとともに、ジオパークの友の会的な団体である「アポイ岳ファンクラブ」を中心に、住民、研究者、行政の協働により、盗掘防止、登山道整備、高山植物の再生活動、シカの過食圧の調査などの自然環境保全や調査活動を 15 年以上に渡り継続的に実施している。なお、かんらん岩鉱山の砕石跡地については、持続可能性の観点から今回ジオサイトより除外することとされた。（添付資料参照）

推進体制

厳しい財政状況の中で、植物の学芸員に加え、新たに地質の専門員を 1 名採用し、学芸員 2 名の体制にしたことは、ジオパークの活動に対する意気込みの現れといえよう。また、町で雇用されている英語補助員（ALT）2 名がジオパークの活動に加わっているため、今後、英語素材の制作や海外のジオパークとのコミュニケーションなどが期待できる。

拠点施設とジオツーリズム

フィールドへの発着情報拠点として「ビジターセンター」、ワークショップ拠点として「アポイ岳地質研究所（ジオラボ）」、研究者の活動拠点として「アポイ岳調査研究支援センター」、住民や学生がかんらん岩に触れる場として「かんらん岩広場」など、施設整備が多様かつコンパクト、機能的。認定ガイドについて制度要綱が策定され、サービスの質が確保されるとともに、ガイドの収入が増加

していることは好事例である。また海岸地形の観察に有効かつ魅力的な「漁船を使ったジオツアー」の準備や、エージェントの商品ツアーにつなげるモニターツアーの実施(6回) 地域産品にジオ推奨ラベルを貼る取組みなど、多方面のツーリズム展開が進められている。津波災害の状況を写真で伝えるなど、防災教育的視点を含む案内が行われていることも評価できる。

教育活動と地域の参画

町民の、町の経済を支える産業でもあるかんらん岩への愛着を強く感じられた。敷石やモニュメントなど、町のいたるところにかんらん岩があり、「オリビン」の名が知られている。小野工業、東邦オリビン工業、日本電工、工藤商店、花菱水産、中村おやき店、第18天幸丸など、民間企業がジオパークを積極的に活用・支援していることが確認でき、ジオパークを取りまく地域の一体感が感じられた。加えて「ふるさとジオ塾(27回、994名参加)」「ジオツアー(14回、278名参加)」などにより、さらなる地域内外の理解を深める活動が活発に行われている。またアポイ岳地質研究所(ジオラボ・2012年開設)では、新井田清信博士(元北海道大学大学院准教授)を所長に迎え、地質の学芸員と共に住民学習会などが行われており、今後は大学の巡検サポートも行う予定。

研究・ネットワーク活動

研究者の宿泊拠点としてアポイ岳調査研究支援センターを運営し、研究者との連携体制が作られている。研究支援の仕組みとして大変優れた取り組みとして評価できる。様似町の昆布の品質が良いことにかんらん岩の成分が影響しているかどうかについては、北海道大学(北方生物圏フィールド科学センター)との包括連携協定による研究が進められている。ネットワーク活動としては、地域の中学校(様似中学校)の生徒が、洞爺湖有珠山地域に「ジオパーク学習」に行くなど交流が生まれている。

2) 結論

アポイ岳ジオパークは、以下の特徴を有する。

アポイ岳ジオパークは、マントル物質が露出するアポイ岳から地球深部の構造や、ダイナミックな大地の活動について知ることができる、世界的にみて貴重な地質学習資源を有する。

国際学会開催等の実績があり、また研究者の支援・受入れにも熱心で、世界的にみて貴重な研究フィールドでの活動を支援する体制が整っている。

かんらん岩という地質の分布のため、アポイ岳には固有の生態系が成立している。そこで続けられてきた官民一体の自然保護活動は、そのプロセスや成果を世界のジオパークと共有できる。

かんらん岩を地域のシンボルとして普及、定着させることに成功し、地域住民のアイデンティティ向上と経済活動に効果を出している。この実績は、ジオパークによる持続的発展を実践している例として世界に共有できる。

また、2008年に日本ジオパークとして初めて認定を受けた地域のひとつとして、4年間の活動の積み重ねにより、施設・人員の増強、ガイドツアーの充実、地域住民・企業の関与などが進み、ジオパークを通じた教育、観光、研究、経済、街づくりなど、多方面の活動への波及が見られる。

さらに、その動きは今後、海外のジオパークとのネットワーク活動が進むことで、さらなる発展・充実が期待できる。

以上をふまえ、アポイ岳ジオパークは、GGNの加盟申請について、日本ジオパーク委員会の推薦を受けるのにふさわしい地域であると判断する。